

1 はじめに

上浮穴支部では、支部内全ての小・中学校にタブレット端末が導入される予定である。そのため、各学校ともタブレット端末をどのように授業に活用していくのか研究を進めなければならない。また、支部内の多くの小学校に複式学級があり、複式学級での授業に、どのようにICT機器を活用すれば効果的かという課題もある。そこで、タブレット端末を先行導入している学校において授業実践を行った。

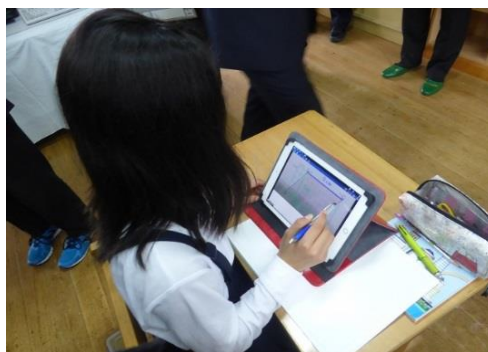
2 実践事例（久万高原町立明神小学校）

（1）タブレット端末を活用した授業実践

明神小学校は、全校児童にタブレット端末が整備されている。また、教員機も2台あり、これらを活用して主に算数科においてタブレット端末を活用した授業実践を行った。

まず、問題提示の場面において、モニターや黒板に提示したものと同一ものを、児童はタブレット端末で確認できるようにした。こうすることで、一人一人がすぐに思考する場面へ移行できた。次に、一人一人が考えたことや問題解決への手順をタブレット端末に書き込むようにし、それらを集約して、比較したり拡大したりして集団思考の場に活用した。また、タブレット端末を持ち寄って、考えを伝え合う場面も見られた。

これらの授業実践を支部内の教職員にも公開することで、タブレット端末を活用した授業例として参考になった。



（2）複式学級での授業におけるタブレット端末の活用

複式学級での授業においては、授業者が二つの学年を行き来しなくてはならない。そのため、片方の学年に、授業者を待っている間接指導の時間をどのように活動させるかが課題となる。そこで、本時の問題に入るまでの間、タブレット端末からインターネット回線を利用した学習ソフトを活用した。このソフトは、単元別に問題が構成されており、前時までの内容を復習することができる。授業者を待つ間接指導を児童は有効に活用できるようになった。

3 成果と課題

タブレット端末が整備されても、どのように活用していけばよいか不安の声が聞こえてきていたが、今回授業での活用事例を示すことができたので、来年度からの導入に向けてイメージが持てたのではないかと考えられる。しかし、タブレット端末だけでは授業改善には結びつかないので、有効なアプリケーションの選別、周辺機器の整備等の課題が挙げられる。